

# 一般財団法人 日本出版クラブ 理事会・評議員会開催 創立70周年記念事業の概要が決まる



2023年3月29日(水)、一般財団法人日本出版クラブの理事会並びに評議員会が開催され、2023年度の事業計画案(主な事業を下記に掲載)・収支予算案が承認された。  
1953年に創設された日本出版クラブは、本年9月に創立70周年を迎えるが、下記の通り記念事業をおこなうことも決定した。



出版クラブ会報  
No.616

## 日本出版クラブ創立70周年記念事業

創設時の理念である「出版界の総親和」を達成するため、出版人の交流・親睦をはかり、出版文化の昂扬発展に寄与することを目的とする。

- (1) 3Fクラブライブラリーにテーブル・イス・コーヒーマシンを設置、「本が読める場所」「寛げる場所」「待ち合わせできる場所」にする。
- (2) クラブライブラリー全蔵書の図書データを作成することにより、本の保管場所がわかるようにし、寄贈していただいた方々にとって自然に足が向く場所とする。
- (3) 「全出版人大会風呂敷展」・「出版クラブ写真展」など、クラブライブラリーにて日本出版クラブ70年の歴史に纏わる展示をおこなう。
- (4) 『出版クラブだより70周年記念特別号』の発行とともに、『出版クラブだより』すべての号をデジタル化し、ホームページから自由に閲覧・検索できるようにする。
- (5) 維持員社は参加無料とする創立70周年記念の講演会・セミナーの開催。  
\*初回は松信健太郎氏(有隣堂代表取締役社長)の講演会を開催(日時=2023年4月10日(月)15時より/会場=出版クラブビル)
- (6) クラブライブラリーの螺旋階段を利用し、期間限定でクリスマスツリーを模したイルミネーションを設置する。
- (7) ホール・会議室の利用促進を目的として什器備品の入れ替えをおこなう。

## 2023年度の主な事業予定

- (1) 第62回全出版人大会  
日時=2023年5月8日(月) 午後3時より  
会場=ホテルニューオータニ 鶴の間  
大会委員長=廣野眞一 氏(集英社代表取締役社長)  
\*恒例の長寿者祝賀・永年勤続表彰による出版人に対する顕彰とともに、大会声明採択・記念講演会等、出版文化の昂扬の場としていく。  
4年ぶりに懇親会も開催する予定である。
- (2) 出版平和堂 第55回 出版功労者顕彰会  
日時=2023年10月25日(水) 正午より  
会場=箱根 出版平和堂、箱根ホテル  
\*出版物故者の調査をもとに出版功労者を顕彰し、平和へのメッセージを発信していく。  
\*出版平和堂記憶板設置スペース増設工事(4月上旬~6月下旬)。
- (3) 第71回 「読書のめぐみ運動」  
\*開催期間=2023年10月中旬~2024年2月中旬  
\*維持員社ははじめ出版関連団体の善意により、児童福祉施設・矯正施設等に図書の寄贈をおこなう。
- (4) 新年名刺交換会  
日時=2024年1月9日(火) 12時30分より  
会場=出版クラブビル  
\*野間省伸・日本出版クラブ会長等、出版5団体の代表が新年の抱負や決意を業界内外に表明、『出版クラブだより』への名刺広告協賛も含め、出版文化昂扬並びに親睦・交流の場とする。

### 主な記事

- ▽一般財団法人日本出版クラブ 理事会・評議員会開催
- ▽私の一冊 | 創立70周年記念事業の概要が決まる……浅野 純次
- ▽出版クラブビルのみなさんに聞きました「私にとって大切な一冊」……三 五
- ▽「ぜひ読んでほしい一冊」を教えてください……八七六
- ▽2023出版関係新年名刺交換会
- ▽13年ぶりの開催に会場全体が賑わう「出版関係新年名刺交換会」……
- ▽第70回読書のめぐみ運動「93社より1万7千余冊の図書を寄贈……紙か? 電子か?」

「全出版人大会の歩み」展  
大会を彩る記念風呂敷と  
時代を映し出す大会声明  
\*クラブライブラリーにて開催中

# 日本出版クラブ創立70周年企画

## 私の一冊

出版企業年金基金理事長  
高橋松之助記念顕彰財団理事長



紙に「今年の3冊」を挙げてきているのでその十数冊の中から選んでみてはどうか、と。しかしその前に読書について日頃、感じていたことを少々書き連ねてみたい。永年、いくつもの媒体に書評のようなものを執筆してきたおかげで本の読み方にクセがあった。

「私の1冊」といえば、『ジャン・クリストフ』『チボー家の人々』『銀河鉄道の夜』『十五少年漂流記』……あるいは『石橋湛山評論選集』か。でもまだまだ出てきそうで、「1冊」は何とも厳しい。

「私という人間は、読んできた本で出来上がっている」と言ったのは福原義春さんだったが、確かに言っていて妙だ。とすると、数百、数千の本が少しずつ血肉となつて人は出来上がっていることになる。

などと考えていたら、こんな結論に達した。ここ何年か、某

## 浅野純次

(あさの・じゅんじ)

どの本もやたら傍線を引いたり、付箋を貼つたり、余白に書き込んだりする。家人には「古本としての価値はないわね」と言われるが、お貸しする人からは私がどこに注目したかがわかつて面白いと言われることも多い。

そんな読書+アルファが楽しめるので私は「紙の本」派だが、おかげで読書とは単に本を読むことではなく、本と(つまりは著者と)対話することだと改めて思い知らされる。疑問を感じれば「？」と短い文章を書き込む。重要なら傍線(ときに二重

線)。もちろん付箋も、だ。ただ受け身で読むよりも、読書がずっと動的になって楽しめる。読書感想文もいいが、読後感を人に話すのも大事なことだ。いい本だったと人に紹介するだけでも読んだ価値はある。ほんとは読書会でもできればいいのだろうが、荷が重い人が多いだろう。

世間は本の表彰ばかりで、書店員の皆さんも大活躍だが、それぞれの集団や組織でお薦め本を発信するのも読書活動の一環だという気がする。

そんなことで本誌前号の年頭所感で出版クラブビルに働く人々たちによるお薦め本の企画を提案してみた。同じビルに働きのながらつながりの少ない同士が集まって、今年はこの本をお薦め候補にするかワイワイと議論するのも読書の一環ではないだろうか。

「出版クラブだより」で紹介し、3階ロビーで華やかに展示する。版元も交えたイベントを企

画するのもいい。そのときは業界紙にはぜひ紹介していただきたいものだ。

読書のイベントで私が何より注目しているのはブリオバートルである。自分が気に入った本の推薦の辞を競い合い、最も多くの人が読みたいと思った本を紹介した人が1位になるというものである。

今や全国の小中高校で学年単位、学校単位で活発に行われている。感激した本の魅力を5分か10分で聞き手に伝える能力を磨くというのには大事なことだし、聞き手にとっても良い本に巡り合える良い機会になるだろう。出版クラブの会議室で開催できたら楽しそう。互いのコミュニケーションも深まるだろう。

さて「私の1冊」だが、以下の5冊が残った。いずれもここ3、4年の本である。

- ①中島京子『夢見る帝国図書館』(文藝春秋)



浅野純次氏のベストオブベスト  
『希望の教室』(海と月社)  
ジェーン・グドールほか 著  
岩田佳代子 訳

- ②徳永進『いのち』の現場でとまどう(岩波書店)
- ③D・ミニヌイ『シリアの秘密図書館』(東京創元社)
- ④共同通信取材班『日本の知、どこへ』(日本評論社)
- ⑤J・グドールほか『希望の教室』(海と月社)

- ①は心がほっこりしてきて余韻が素晴らしい。②は終末医療にあつて人の尊厳と謙虚と敬意のありようが強い力で迫ってくる。③は戦火の中で本と読書を守るとうとする人々の感動のドキュメント。④日本の地盤沈下の裏に科学研究力の低下があることを綿密な取材で明らかにした調査報道の金字塔。⑤著者の語りは説得力十分でかつ楽しく、「いっしょならできる! いっしょにやろう!」という呼び掛けが素晴らしい。というわけでは「希望の教室」を「1冊」にしよう。87歳の動物行動学者の若々しいメッセージからは誰もが勇気をもらえるだろう。

出版クラブビルのみなさんに聞きました

### 「私にとって大切な一冊」

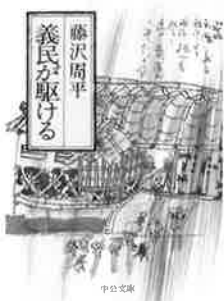
### 「ぜひ読んでほしい一冊」

を教えてください

一昨年、クラブライブラリーでは「コロナ禍と読書」をテーマに「私たちが気づいたこと 忘れたくないこと」と銘打って展示をおこないました(当クラブのホームページでは、デジタルアーカイブとして引き続きご覧いただくことができます <https://shuppan-club.jp/>)。

昨年はブックガイド『忘れたくない本のほん』を刊行、全国の図書館100館に寄贈するとともに、それに因んだ「未来に残したい忘れたくない本」展を開催いたしました。

当クラブが創立70周年を迎える今年、出版クラブビルテナント並びに関連団体の皆さまによる「私にとって大切な一冊」「ぜひ読んでほしい一冊」を紹介していただきます。「出版クラブビルからも読書についての発信を」と出版企業年金基金・浅野純次理事長のアドバイスによるものです。(順不同)



### 『義民が駆ける』

藤沢周平著(中公文庫ほか)

新田賢一

庄内藩(現山形県庄内地方)

酒井家が巻き込まれた三方領知

国替え取りやめの訴えが他藩や江戸へ届いていく話の展開にわくわくします。

読み終えて「そういえば、主人公がいけない」ことに気づき、さらに面白く感じました。藤沢周平の作品の中で、大好きな小説のひとつです。(出版企業年金基金)



### 『ごまかさない仏教』

佐々木閑・宮崎哲弥著(新潮選書)

渡辺政信

書中、宮崎哲弥さんは「私

替えの幕命に、「百姓と雖(いえど)も二君に仕えず」と農民たちが立ち上がった天保義民事件が題材の歴史小説です。

舞台となっている現在の山形県鶴岡市に住んでいたことがあり、出てくる地名や方言になじみがあることも助けとなって、一気に読み進めることができました。

命がけで直訴に立ち上がった農民たちに酒田の豪商本間家が肩入れし、庄内藩士たちは止めようとしませんがそれを掻い潜り

院」たる仏教をもっと知りたいと思わせてくれます。(日本出版インフラセンター)

心に折り合いをつけて うまいことやる 習慣



### 『心に折り合いをつけて うまいことやる習慣』

中村恒子・奥田弘美著(ずばる倉)

S

89歳で現役の精神科医。日々 たんたんと生きて来られた先生の言葉は、不思議と気持ちを楽しませるものです。自分にできることならしよ。」「幸せでなければいけない」と思わない。もらったものに感謝をし、それ以上は望まない。流れに身を任せる。他人と自分に線引きをする。それでいいのかと気がかされる一冊です。

### 『螺旋の手術室』

知念実希人著(新潮文庫)

観葉植物

医者になれという父親に反発しながら父親と同じ病院の医者になった兄と弁護士を目指した

妹。

医者になった裕也は手術中に父を死なせてしまう。教授選に絡む候補者達の死、事故が連続殺人か？

なぜ父は子供達に冷たかったのか？ 展開の早さと謎の解明に惹き込まれて読み進み、意外な結末に哀しみを覚える作品です。



### 『屍人荘の殺人』

今村昌弘著(東京創元社)

反保 浩

松本清張の「点と線」を読んだから約40年、どれだけたくさん読んだか。しかし奇抜という点において本作は、これまで私が読んだ作品の頂点に立ってしまっ。ミステリーにこの発想は前代未聞、こんなありか、と絶句するも面白いのであつという間に読破。映画版では浜辺美波が好演、原作とは微妙に違う設定で、原作と映画で2度楽しめる。

(出版企業年金基金)

### 『地球幼年期の終わり』

アーサー・C・クラーク 著  
(創元SF文庫)  
鈴木宣幸

敢えてこのSFの名著を推す。宇宙進出目前の人類に突如現れた超文明の支配者。国際機関のトップとのみ交渉し、姿を見せない意図とは？10代だったわたしは、真相に驚愕した。「こんなの書いていいの?」「こんなの読んでいいの?」この本と出会わなければいまのわたしはない。

(日本雑誌協会)

### 『どくとるマンボウ青春記』

北杜夫 著 (新潮文庫)  
中井 泉

人格形成に一番影響があったという観点では北杜夫著『どくとるマンボウ青春記』になるだろうか。当時は中公文庫で読んだが、今は新潮文庫で出ている。

「鬱勃たるパトスを持って」「デカンショ、デカンショで半年過ぎず、後の半年寝て過ぐす」といった言葉は今も頭の中で木霊のように響いている。青春記だけでなく、航海記、昆虫記、医局記などどれをとっても名作なので読んで損はないです。

(島津理化)



### 『新版貧困旅行記』

つげ義春 著 (新潮文庫)  
矢野正晃

「侘しさの先にある平穩」「寂寥がもたらす安息」。日本の原風景たる山間の名もなき旅館や鄙びた湯治場を彷徨いながら、著者は自己否定により自己を解放していく。フランスのアンゲレーム国際漫画祭「特別栄誉賞」を受賞したつげ義春による紀行エッセイ。物質的な豊かさとは対極の、私の求める「Chill」がここにある。

(日本雑誌広告協会)

### 『イン・ザ・プール』 『空中ブランコ』

奥田英朗 著 (文春文庫)  
川又民男

サン・ジョルディの日はあるが、本の贈り物は、他人の時間を奪い、価値観を押しつけることでもあるので、思いのほか慎重になる。それでも少しも笑って元気になってほしくて、こ

れまで最も多くプレゼントしてきた本は、奥田英朗『イン・ザ・プール』と続編『空中ブランコ』(文春文庫)である。読んだことのない方、うらやましい!(日本書籍出版協会)

WJYOUNG JUMP COMICS 1



### 『カッパの飼い方』

石川優吾 著  
(集英社 ヤングジャンプコミックス)  
高木康行

もしも、「カッパ」が現代の「犬・猫」のように、飼えたらという漫画です。「ほっこり」温かい漫画です。私のぜひ読んでもらいたい一冊です。

(なかや蒲焼店)

### 『さぶ』

山本周五郎 著 (新潮文庫)  
中越明子

「さぶ」の友人、栄二の話なのに、なぜ題名は「さぶ」なのか。どんな時でもただひたすら栄二

を信じ、支え続ける「さぶ」。大切に思うからこそきついことを言う「おのお」。栄二、こんな素敵な友人たちに囲まれた君は幸せ者だ。最後に真の友情を教えてくれた「さぶ」がやっぱり主人公だと納得できる心温まる小説だ。

(日本雑誌協会)



### 『学習まんが人物館 レーナ・マリア』

ビヤネール多美子 訳 (小学館)  
佐々木舞葉

障害をもつ祖父が多々困難な目に遭うのを幼い頃から見てきました。障害がある方に関心があった小2の時、図書館で出会った伝記です。

出生時から重度の障害を抱えながらも、前向きに水泳や歌手として世界で活躍する半生が描かれています。

レーナの明るい心と笑顔に胸が刺さりました。勇気を与えてくれた1冊です。

(出版企業年金基金)

### 『資本論』

カール・マルクス 著  
大内兵衛・細川嘉六監 訳 (大月書店)  
西原克年

私達の学生時代、多くの人が何らかの形で遭遇し、格闘した本です。岸田首相があえて「新しい資本主義」の模索を提唱する現在、この本の序文の名言「学問には平坦な大道はありません。そして、学問の険しい坂道をよじのぼる労苦をいとわれないものだけに、その明るい頂上にとどり着く見込みがあるので」が輝きを増している。これを改めて深く噛みしめて、21世紀の経済というテーマを研究してみたいと思っています。

(島津理化)



### 『花あらし』

阿刀田 高 著 (新潮文庫)  
山田英樹

最初はおちよつと見栄を張って、『大地』(パール・バック)か『豊饒の海』(三島由紀夫)

にしようかなと考えていたのですが、我が家の蔵書を確認したら、阿刀田高の文庫が50冊以上残っていることに気づきました。

20年ほど前のことでしょうか。当時、打合せと称した「単なる飲み会」に週半分以上の夜を奪われていたのですが、何故か予定がない日も真っ直ぐ帰る気にならず、喫茶店に立ち寄って、阿刀田さんの短編を読んでいた。艶っぽさを交えたブラックユーモアが好きなのですが、とにかく絶妙で予測できない結末をうまい珈琲とともに愉しんだ至福の時間だったことを思い出しました。

さて、一つあげるとしたら、ブラックな阿刀田節とは対極の作品なのですが、溢れ出る美しい情景にほろりとし、優しい気持ちになれる「花あらし」(新潮文庫)です。「ナポレオン狂」(講談社文庫)と比べても面白いです。ぜひ読んでみてください。(日本雑誌協会)

### 『二十一世紀に生きる君たちへ(併載:洪庵のたいまつ)』

司馬遼太郎 著(世界文化社)  
小藤達郎

作家の司馬遼太郎氏が、二十

一世紀を生きた子どもたちに向けて書いたメッセージです。「人間とは自然の一部にすぎない」「自分に厳しく、相手に優しく、素直で賢いという自己の確立をせよ」

「またいたわり、他人の傷みを知り、やさしくあれ。」  
自己の確立、大人になって見失いがちで、改めて大切なことに気づかされました。(島津理化)



### 『最終講義 分裂病私見』

中井久夫 著(みすず書房)  
藤間裕之

日本を代表する精神科医で、優れた文筆家でもあった中井久夫の名著。専門家だけではなく、知的公衆へも届いて欲しいと願う上梓された。「他者との折り合いの難しさは自分との折り合いの難しさをもうかがわせませよ」といった日本語のやさしさ、美しさから伝わる患者、ひとへと寄り添うその姿勢はいつ読んでも深く感銘させられる。(島津理化)

### 『白きたおやかな峰』

北 杜夫 著(新潮社)  
山田智恵子

中学生の頃、どくどくするマンガウシリーズや「幽霊」「榆家の入びと」の次に、自宅近くの小さな古本屋で手にしたのがこの本でした。

カラコルム遠征隊の話でしたが、正直なところ内容はもう臆気です。が、早く次を知りたい、でも読み終わってしまうのが惜しい、と葛藤しながら大切に一頁一頁ページをめくるわくわくした気持ちは今でも鮮やかに覚えています。

読み返してしまうとあの時の思いが色褪せそうで、それが怖くて読み返せないでいる大切な一冊です。(島津理化)

### 『パリの空の下で、息子と僕の3000日』

辻 仁成 著(マガジンハウス)  
Yuki-G

作家でミュージシャンでもある著者の、シングルファザーとしての日記である。離婚して子育てを行ってきた奮闘記かと思つたが、シングルファザーになつた時の絶望感から料理を通し

て向き合っていく、息子の幸せそうな顔が自分の幸せだと思える帯に記載している感覚を与えられた。果たして自分にも同じことができるのだろうか、父と息子の関係は会話が続かないけど、ほっこり過ぎせばいいのかもしれない。



### 『日本の近代活字 本木昌造とその周辺』

『日本の近代活字 本木昌造とその周辺』編纂委員会 編(近代印刷活字文化保存会)  
安部真由美

造本装幀コンクルの担当になったなら、この本くらい目を通しておきなさい。と言われて初めて手にした本。函に大きく描かれた「の」の字が印象的で引き込まれ、本を開くと美しいタイポグラフィで彩られた本文、装幀がわからずとも直感で「美しい本だ」とわかる本である。(日本書籍出版協会)

### 『かもしかみち』

藤森栄一 著  
(学生社のち雄山閣より復刻)  
小塚昌弘

主に長野県をフィールドに活躍した在野の考古学者、藤森栄一(1911年~1973年)の著した「考古学随筆集」である。この本を読んだ少年時代の私は、「深山の奥には今も野獣たちの歩む人知れぬ路がある。ただひたすらに高きへ高きへとそれは人々の知らぬけわしい路である。私の考古学の仕事はちょうどそうしたかもしかみちにも似ている。」という著者の一言にしばれ、考古学マニアとなり、発掘現場にも立つてしまったのであった。

(読書推進運動協議会)

今回、20名の方々にご執筆いただきました。代表取締役、専務理事、営業部所属、総務部所属など、様々な立場の方の原稿です。年度末のお忙しいなか、本当にありがとうございます。



# 2023 出版関係新年名刺交換会

2023年(令和5年)1月6日(金) 出版クラブホール

— 3年ぶりの開催に会場全体が賑わう —

コロナ禍で2020年の開催以来中止となっていた「出版関係新年名刺交換会」が、1月6日(金)正午より、神田神保町の出版クラブビルで3年ぶりに開催され、3・4階を開放した会場には人数制限を設けながらも約250名の出版関係者が参集し、新年の宴を楽しみました。

出版界唯一の新年会ともいえる名刺交換会では、主催する当クラブの野間省伸会長をはじめ、日本書籍出版協会の小野寺優理事長(河出書房新社)や日本雑誌協会の堀内丸恵理事長(集英社)、日本出版取次協会の近藤敏貴会長(トーン)、日本書店商業組合連合会の矢幡秀治会長(真光書店)の出版関連団体トップが一堂に会しました。

司会進行を務めた日本出版クラブの横川裕史専務理事は、5団体の長の新年のご挨拶が、来場者に配布済の「出版クラブだより1月号」に掲載されていることを紹介するとともに、維持員社をはじめとした105社におよぶ協賛広告について謝辞を伝えました。

野間会長は日本出版クラブが今年創立70周年を迎えることを報告するとともに、新たに起こる様々な問題に対応し、出版界を発展させるには関係者の協力が不可欠と呼びかけ、会を締めくくりました。

## 野間会長のあいさつ

あけましておめでとうござい  
ます。

3年ぶりに皆様といっしょに  
新しい年を祝うことができ、大  
変うれしく思います。

こうして皆様に直にお目にか  
かると、あらためてリアルにお



新年のあいさつする野間省伸会長

会いして言葉を交わすことの大切さを実感いたします。

とりわけ出版というものが、このような「フェイス トウ

フェイス」のコミュニケーションのなかから、新しい企画を生み出してきたからこそ、読者の心を揺さぶり続けられてきたと

思います。

さて、今年、日本出版クラブは創立70周年を迎えます。これも皆様のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

日本出版クラブは、昭和28年9月に「出版界の総親和」という精神のもと創設されました。

現在、出版業界には、流通改革、海賊版対策、著作権問題など様々な難問が山積してあります。どれも個社の努力だけでは解決しきれない大きなテーマです。

数多くの課題に直面している今こそ、「出版界の総親和」という創設の精神に立ち返って、各社、各団体が垣根を乗り越えて、課題解決に立ち向かっていくときだと思えます。

昨秋には、多くの団体が一つとなつて、新しい読書推進月間「BOOK MEETS NEXT」にチャレンジしました。

こうした一致団結した動きが出版界に新しいムーブメントを起こすことを期待しています。

2023年、出版界は「ワンチーム」となつて、「新しい歴史」をつくる1年にしていきましょう!

## 第62回 全出版人大会

日時/2023年5月8日(月) 午後3時より

会場/ホテルニューオータニ東京 鶴の間

## 出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申し上げます。



## 受賞祝賀会

受賞の栄誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

# 第70回 読書のめぐみ運動 (主催/日本出版クラブ) 93社より1万7千余冊の図書を寄贈

読書週間行事として実施している「読書のめぐみ運動」は、今回で70回目を迎えました。読書の機会に恵まれない人たちのもとへ届けられた本は約176万余冊となり、各所よりたくさんの方の感謝が寄せられ、名実ともに全国規模の運動として継続されています。

今回は、93社のご協力を得て、1万7111冊の図書が全国の矯正施設や児童福祉施設等に寄贈されました(第70回までの総冊数1176万2288冊)。また、運送経費等に充てられる協賛金も19社のご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。また、皆さまからお預かりした図書を一時的に保管する場所として、本年度も昭和図書のご協力を賜りました。改めて御礼を申し上げます。次第です。

## 図書寄贈協賛社名

- あかね書房 秋田書店 朝倉書店 朝日新聞出版 池田書店 1万年堂出版 岩波書店 NHK出版 オーム社 音楽之友社 偕成社 化学同人 風間書房 Gakken 教育芸術社 京都新聞出版センター 共立出版 近代映画社 近代消防社 金の星社 工藤出版サービス くもん出版 暮しの手帖社 研究社 建帛社 恒星社厚生閣 佼成出版社 講談社 光文社 国際紙パルプ商事 国土社 小峰書店 三修社 CQ出版 集英社 春陽堂書店 小学館 小学館集英社プロダクション 彰国社 祥伝社 昭文社 新生紙パルプ商事 新潮社 数研出版 成美堂出版 誠文堂新光社 増進堂・受験研究社 第一学習社 第三文明社 大修館書店 大日本図書 高橋書店 筑摩書房 チャイルド本社 中央公論新社 つり人社 帝国書院 東京創元社 東京堂出版 童心社 徳間書店 永岡書店 西村書店 日貿出版社 日本ヴォーグ社 日本紙通商 日本紙パルプ商事 日本教育社 日本実業出版社 日本児童図書出版協会 日本文芸社

## 一般財団法人日本出版クラブの理事会・評議員会にて 第62回全出版人大会の大会委員長に廣野眞一氏(集英社社長)を選出

2022年12月13日(火)、

一般財団法人日本出版クラブの理事会並びに評議員会が開催され、2022年度上半期(4、9月)事業報告・収支報告並びに下半期(10、3月)事業予定等の報告がなされ、厳正なる審議の上、すべて議案は可決承認

された。

事業全般については、式典・講演会のみではあったが、「第61回 全出版人大会」が、3年ぶりにホテルニューオータニにて開催された。また、クラブライブラリーとの運動企画「忘れ

全国の図書館に寄贈をおこな

った。会館事業については、利用者数が対前年比約212%となり、コロナ禍から回復基調にある。上半期の収支については、事業活動収入が6千2百万円。対する事業活動支出は6千1百万

- 農山漁村文化協会 白泉社 博文館新社 ぴあ PHP研究所 ひかりのくに 福音館書店 婦人之友社 ブティック社 フレール館 文英堂 文化出版局 文藝春秋 平凡社 ベレ出版 ポプラ社 丸善出版 光村教育図書 緑書房 山川出版社 理論社 黎明書房

## 協賛金協力社名

- (以上93社)
- 医歯薬出版 国土社 コロナ社 実教出版 春陽堂書店 裳華房 成美堂出版 大日本印刷 ダイヤモンド社 ガヴィッド社 電気書院 図書印刷 日本加除出版 日本文教出版 白泉社 博文館新社 ひかりのくに 富士経済グループ本社 文化産業信用組合 (社名五十音順)

円となり、バランスのとれた結果となった。(株)出版共同ビルからの長期貸付金戻入収入である投資活動収入を加えた上半期の収支差額については、1千7百万円のプラスとなった。

また、廣野眞一氏(集英社代表取締役社長)が、満場一致の賛成で次期大会委員長に選出された。なお、第62回全出版人大会は、2023年5月8日(月)午後3時より、ホテルニューオー

## 「第70回読書のめぐみ運動」 寄贈先各所より 感謝の声が寄せられる

「第70回読書のめぐみ運動」はすべての施設への図書寄贈を終えた。1月30日(月)は箱根町町長室にて(写真左)、2月7日(火)は京都市役所市長応接室(写真右)にて図書贈呈式が執りおこなわれ、感謝状等が当クラブに贈呈された。



# 出版 歳時記

▽いつからだろ  
うか? 宅配で購読している日本経済新聞を読まなくなつたのは。毎朝8時前に自宅マンション1階の集積場にゴミを出した後、郵便受けから取り出してはいるのだが、ダイニングテーブルの上に放置するようになった。

▽毎朝7時前に目が覚めると、布団のなかでスマートフォンを開く。まずは元・日本出版販売、現・Gakkenの古幡瑞穂さんが毎朝配信する「出版業界ニュースまとめ」の紹介記事をひとつずつ読む。ゴミ出しを終えるとパソコンを開き、HONIP理事長の鷹野凌さんが毎朝配信する「日刊出版ニュースまとめ」の紹介記事を確認。さらに9時過ぎに届く、キーワードを登録することで最新情報を自動収集できる「Googleアラート」による出版社やメディア

▽関連企業に関するニュースを読むと、あつという間に3時間以上が過ぎてしまうのだ。  
▽日経新聞からも朝、昼、晩と「日経ニュースメール」が届くので、気になる見出しの記事は電子版で読んでいます。さらにYahoo!ニュース、Facebookのタイムラインに流れてくるニュースなどを読んでみると、とても紙媒体まで手が回らない。  
▽日経新聞、マーケティング関

## 紙か? 電子か?

連記事が充実しているWebマガジン「日経クロストレンド」は有料会員だが、ほかのニュースは無料で読めてしまう。コロナ禍以前は、夜帰宅後、出版社前に読めなかった朝刊と夕刊をまとめて読むこともあったのだが、その習慣も在宅時間が長くなってからなくなった。新卒で配属された週刊誌編集部で先輩記者から勧められて以来、36年

間以上宅配で購読していた「日刊スポーツ」も昨年いっぱい契約を打ち切った。  
▽一日早く読めるので会社経由で定期購読していた「週刊文春」も、最近では「文春オンライン」の無料記事と書店での立ち読みで済ますようになり、紙の雑誌を定期的に買うことはなくなった。この数カ月で購入した雑誌を見返したところ、「週刊東洋経済」11月19日号「氾濫するPR」、「POPEYE」12月号「お久しぶりです、京都。」、「昭和50年男」1月号「藤子不二雄(A)がオレたちに残したのも、そしてムックの「GSプリッツ」vol.66「追悼特集」アントニオ猪木1943-2022」と仕事上必要なものと趣味用だけだった。

▽昨夜、「もう読まないなら、紙の新聞はやめたら」と妻に言われた。電子版のみの契約に切り替えるべきか思案中だ。(乙羽小牧)

# 編集雑記

☆当日本出版クラブの設立総会が開かれたのは、昭和28年、1953年の9月18日のことです。それから70年。記念の年を迎える新年度が始まりました。奇数月の発行を基本としています。今年度の事業計画をみなさまに伝えるべく4月の発行に変更しました。

☆新型コロナウイルスの第8波は収まらず、3月13日からマスク着用が変えられたことにより、ホール、会議室での運用ルールを変え、お客様のマスク着用についてはご自身のご判断にお任せすることにいたしました。また飛沫防止のためのアクリル板は外してあります。お客様の要望があれば設置いたします。係の者におっしゃってください。

☆5月8日には2類相当から5類に変更されます。ちょうどその日は全出版人大会が開かれます。4年ぶりに懇親会も行う予定です。みなさまのご参加をお待ち申し上げます。

☆70周年の記念事業の一つとして、3階クラブライブラリー前にコーヒーマシンを設置し、テーブルにも置きました。維持員社のみならずには無料で提供します。打ち合わせに、読書の共に、また時間つぶしにお気軽にご利用ください。(横)

## 70<sup>th</sup> Anniversary

日本出版クラブは創立70周年を迎えます。  
引き続きクラブホール・会議室のご利用を  
お願い申し上げる次第です。

### 出版クラブホール・会議室 PUBLISHERS CLUB HALL

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル

TEL 03-5577-1511/FAX 03-5577-1772

<https://shuppan-club-hall.jp/>

神保町駅(東京メトロ半蔵門線、都営新宿線・三田線)

A5 出口より徒歩2分

